

κύριε

キュリエ

知っておきたいキリスト教のことば (58)

キリエ きりえ

「キリエ (Kyrie)」という言葉はラテン語で、ギリシア語「キュリオス」の呼格である「キュリエ」の訳です。「キュリオス」は日本語では「主(しゅ)」という言葉ですから、「キリエ」は「主よ」という意味になります。

聖公会の礼拝に初めて出たときに、最初の方で会衆が「キリエ・エレイソン」と歌っていました。正直、何を言っているのか全くわかりませんでした。

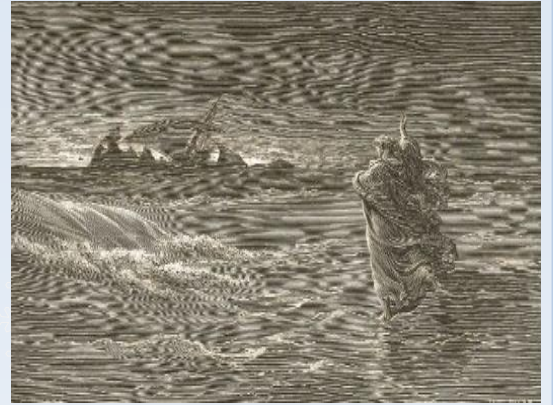
現在の祈祷書の 163 ページをみると、この部分は、①「栄光は、父と子と聖霊に…」、②「主よ、憐れみをお与えください…」、③「ほめ歌え、全能の父なる神を…」のうち一つを選択し、歌いまたは唱えることになっています。そして②「主よ…」のかわりに「キリエ・エレイソン」を用いてもよいことになっています。

しかし「キリエ・エレイソン」という祈りは古代から多く使われてきた祈りであり、東方教会でも、典礼の中で最も頻繁に出て来る祈りです。そのため教会では、「キリエ」というと、この「キリエ・エレイソン」という祈りを指すことが多く、聖公会の礼拝の中でも多く用いられているのです。

この「キリエ」を唱えるときですが、その意味を心に込めて祈りたいものです。聖公会での祈祷書では、「キリエ・エレイソン」を「主よ、憐れみをお与えください」と訳していますが、正確には「主よ、憐れめ！」という命令形です。

わたしたちは自分の力だけで歩くことができません。神さまに拠らなければ、進むことができないのです。だからわたしたちは礼拝のときに、主の憐れみを求めます。そして礼拝の中でたくさんの恵みを受け、またそれぞれの地に戻って行くのです。

次回は「キリスト」です。お楽しみに。



「湖の上を歩くイエス」

ギュスターヴ・ドレ

(1832~1888 年)

しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。

(マタイによる福音書 14 章 30 節)

